

## 地域に根ざした活動

Hondaは創業当初より、事業を展開する地域に溶け込み、  
「地域との共生」をめざしてきました。

この考えはHondaの社会活動理念にも受け継がれ、  
国内の事業所、販売会社やグループ会社、世界各国の拠点で、  
地域の特性にあわせたさまざまな活動を展開しています。



Together for Tomorrow





## タッチ・ザ・ワールド & 大使館訪問

### 世界との出会いを楽しむ 「タッチ・ザ・ワールド」

Honda本社のある東京・港区。周辺に多くの大使館が集まるこの地域の特性にあわせた活動として、「タッチ・ザ・ワールド」が1999年にスタートしました。毎年3～5カ国の大使館にご協力いただき、子ども達に世界各国のさまざまな文化にふれる場を提供しています。2007年度は、アルジェリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ドミニカ共和国、クウェートの各大使館などにご協力いただき、特製パスポートを手にしたその国の言葉で挨拶しながら各国ブースをまわるミニミニワールドツアーや、各国のパフォーマンスが繰り広げられるステージ、日本の伝統的な職人技を実演するコーナーなどのイベントを実施。好奇心いっぱいの子も達は、ステージ前でいっしょに歌ったり踊ったり食べたことのない郷土料理などを試食してみたり、新しい文化にふれることを楽しんでいました。



### 出会った国の外交官に取材する 「大使館訪問」

タッチ・ザ・ワールドで出会った国のことをもっと知りたい。そんな子ども達の好奇心に応えるため、イベント参加大使館にご協力いただき、毎年夏休みに「大使館訪問」を実施しています。子ども達は、普段なかなか入る機会のない大使館を訪れて、外交官の方にその国の言葉でまずは自己紹介。事前に調べてきたことや聞きたいことを次々と質問します。子ども達の自由な発想に、驚きながらも丁寧に答えてくれる大使館の方々。貴重な経験をもとに子ども達は取材レポートを作成しました。



#### ●参加人数実績-----

年度	タッチ・ザ・ワールド	大使館訪問 <sup>※</sup>
2005	約1,100名	52名
2006	約1,300名	45名
2007	約1,500名	52名

※ 大使館訪問は定員制です

#### ●「タッチ・ザ・ワールド」大使館訪問 2007年度参加大使館-----

アルジェリア民主人民共和国  
ボスニア・ヘルツェゴビナ  
ドミニカ共和国  
クウェート国



## 障がいのある人の雇用を促進する特例子会社

Hondaは、自立・平等・信頼という「人間尊重」の理念のもと、「人間は本来、夢や希望を抱いてその実現のために思考し、創造する自由で個性的な存在である」ととらえています。こうした人間が集い、個性を尊重し合い、平等な関係に立ち、信頼し、持てる力を尽くすことで、ともに喜びを分かちあえる企業でありたいと願っています。

そして、Hondaは全国の事業所だけでなく、特例子会社のホンダ太陽(株)、ホンダR&D太陽(株)、希望の里ホンダ(株)でも、障がいのある人の雇用を促進しています。

一人ひとりが夢や目標を持ってチャレンジし、心豊かな生活を

### ホンダ太陽(株)

Hondaの創業者である本田宗一郎が、大分県別府市の社会福祉法人「太陽の家」を訪れ、創設者の中村裕博士の「障がいのある人に働く機会を」という考え方に共鳴。Hondaでも障がいのある人達の雇用を拡大し、「社会参加する喜びをともに分かちあいたい、夢を実現してもらいたい」との思いから、ホンダ太陽が1981年に本田技研工業(株)の特例子会社として設立されました。以来、障がいのある人達の雇用拡大と、高品質な自動車部品の製造に取り組んでいます。安全と安心を第一に考え、工場は車いすの人を考慮したユニバーサルデザインに対応しています。



ホンダ太陽は、夢にチャレンジする従業員のサポートも積極的に行っています。そのひとつが、障がい者スポーツで先駆的な役割を果たしてきた「ホンダアスリートクラブ」です。ホンダ太陽とホンダR&D太陽の従業員が所属するこのクラブは、車いすマラソンや水泳などの国際大会への参加

も多く、トップクラスの成績を収めています。また、その他にも車いすバスケットやカートレースなど、夢や目標を持ってチャレンジする従業員を応援しています。

また、ホンダ太陽はHondaの各事業所が社会活動の方針や情報を共有する社会活動連絡協議会の一員として、地域との共生、子ども達の育成支援活動を中心に社会活動を展開しています。従業員が地域の養護学校に出向き、障がいのある子ども達に、ASIMOのダンボールクラブつくり(ドリームハンズ)を体験してもらうなど、地域に根ざした活動を展開しています。



### ホンダアールアンドデー太陽(株)

ホンダR&D太陽は、(株)本田技術研究所の特例子会社として、1992年に設立されました。業務内容がコンピュータによる設計・製図業務などCADに特化しているため、より重度の障がいのある人々が業務に携わることができます。これにより、障がいのある人の雇用のさらなる拡大を図ることができました。

また、社会活動については、同一敷地内にあるホンダ太陽と連携を取りながら、従業員のボランティアを中心に積極的に展開しています。



### 充実感に満ちた、ノーマライゼーション工場

### 希望の里ホンダ(株)

1985年、本田技研工業(株)と熊本県、松橋町(現 宇城市)の共同出資で、自動車業界初の第3セクター方式による重度障がい者雇用事業所として設立されたのが希望の里ホンダです。自動車関連部品は世界最適調達と言う厳しい条件下で、品質最優先の目標を掲げ、障がいのある人々の自立、地域との調和、そして働きがいのあるノーマライゼーション工場の実現をめざして、生産活動に取り組んでいます。

希望の里ホンダがある熊本県宇城市の「希望の里」は、同県が進める心身障がい者福祉拠点と周辺地域との調和を目的とした新しいコミュニケーションゾーン。福祉施設や学校、体育館、グラウンドなどがあり、地域の人々も一緒に働き、スポーツも楽しむことができます。

社会活動については地域社会の一員として、福祉領域や次世代育成支援を中心に、積極的に展開しています。また、社会活動やスポーツを行う従業員に費用や時間の面でサポートすることで、自らの夢の実現や自己成長を図ることを応援しています。



## 国内Hondaグループの社会活動

Hondaの事業所をはじめ、全国に広がる販売会社やグループ会社は、企業市民として、それぞれの地域に根ざした社会活動を展開しています。

### 事業所

本社および国内5カ所の製作所を事業所と称しています。製作所には社会活動推進センターを設置し、各センターと本社の社会活動推進室は、連絡協議会を通じてコミュニケーションをはかりながら、「ドリームハンズ」、「環境わごん」、「国内『水源の森』保全活動」、「交通安全キャラバン」などの共通プログラムを展開。同時に、事業所独自の活動にも力を入れています。



本 社：日本および全世界にわたる生産・販売・サービス・マーケティング・（青山・和光）物流・管理（経理・総務等）の統括機能

埼玉製作所：四輪車および四輪車用エンジンの製造

鈴鹿製作所：四輪車および四輪車用エンジンの製造

浜松製作所：二輪車（中／大型）、四輪車ATトランスミッションおよび汎用製品（船外機）の製造

熊本製作所：二輪車（小型）・汎用製品の製造、軽四輪車用エンジン、汎用エンジンの製造

栃木製作所：四輪車用エンジン部品および四輪車用部品の製造

### 販売会社

二輪車や四輪車など、Honda製品の販売を行う会社。環境保全や安全運転、福祉への取り組みなど、地域のお客さんと直接ふれあえる販売会社ならではの社会活動を展開しています。

### グループ会社

研究開発・営業・輸送・不動産・レジャー・教育・部品製造等に関連する会社。工場見学の受入れ、地域イベントへの協賛や清掃活動の実施など、技術と人の力を活かした地域独自の活動に取り組んでいます。

※この章では事業所と販売会社・グループ会社の一部の活動を紹介しています。販売会社・グループ会社のその他の活動については、P54～P56に掲載しています。

## 事業所共通の活動

### ●工場見学受入れ

「開かれた工場」をモットーに、1960年から工場見学の受入れをスタート。小学校の社会科見学に協力するとともに、地域の方々にHondaに対する理解を深めていただくために、積極的に取り組んでいます。



2007年度実績

事業所	受入件数	参加人数
埼玉	428件	19,505名
鈴鹿	906件	55,325名
浜松	162件	4,031名
熊本	225件	6,975名
栃木	31件	608名
計	1,752件	86,444名

### ●クリーン作戦

Hondaの各事業所では、周囲の清掃活動に加え、地域社会の環境美化活動へも積極的に参加する「クリーン作戦」を行っています。職場の仲間や家族と一緒に楽しみながら取り組んでいます。



2007年度実績

事業所	実施回数	参加人数
本社	42回	433名
埼玉	17回	736名
鈴鹿	2回	587名
浜松	4回	244名
熊本	2回	3,307名
栃木	1回	441名
計	68回	5,748名

### ●献血

各地域の献血センターと協力して、事業所の敷地内において従業員の献血活動を、年間を通じて実施しています。

2007年度実績

事業所	実施回数	参加人数
本社	2回	236名
埼玉	4回	351名
鈴鹿	6回	486名
浜松	4回	664名
熊本	3回	479名
栃木	1回	40名
計	20回	2,256名

### ●年賀ハガキ回収

会社宛ての年賀状を回収し、当選したお年玉付き年賀ハガキを選別して賞品に交換し、各事業所地域の社会福祉協議会などに寄付しています。2007年度は、281枚が当選していました。

## 埼玉製作所

### ●入間川クリーン作戦

入間川中流領域の狭山市に工場がある埼玉製作所では、1979年に入間川河川の清掃活動を開始。1982年に活動を市に移管しましたが、協力を継続しており、2008年3月1日には従業員やOBとその家族182名が清掃活動に参加しました。

### ●「ミニコンサート」送迎ボランティア

地域社会福祉施設を利用する方々とボランティアの方々と交流の場として、川越市社会福祉協議会地域福祉課が実施するコンサート。Hondaは交通手段のない方々の送迎をはじめ、運営（舞台裏進行係）、利用者補助などのお手伝いをしています。Hondaが協力をはじめて9回目となる2008年2月17日のコンサートでは、従業員・OB7名が参加しました。



ミニコンサート

#### その他の活動

##### ●スポーツ振興支援

年間38回のスポーツ大会、実技講習会を実施。従業員のべ431名が運営に参加しました。

##### ●クリスマスイベント開催

地域の方々、従業員やその家族など、約3,000名が来場。約70名の従業員がボランティアスタッフとして参加しました。モノづくりコーナーには、138名の子ども達が保護者の方々とともに訪れ、ミニクリスマスツリーづくりに取り組みました。



入間川クリーン作戦

## 鈴鹿製作所

### ●「Honda HEAT」によるラグビースクール支援

鈴鹿製作所ラグビー部の「Honda HEAT」は、試合の合間や休日、地域社会活動の一環として鈴鹿ラグビースクールの支援をしています。また、近隣小学校の授業の中でタグラグビーの指導や、県内高等学校や集合講習会等でラグビーの指導を行うなど、スポーツ文化振興への取り組みを行っています。さらに、Honda HEATのメンバーが、Hondaビーチクリーン活動に参加するなど、地域の方々とふれあう活動に積極的に参加し、喜びの輪を広げています。



鈴鹿ラグビースクール

#### その他の活動

##### ●ソーラーカーレース会場で「ドリームハンズ」開催

ドリームハンズや電動小型カート組立て教室などを行い、計122名の子ども達が参加しました。10名の従業員やOBがボランティアで運営にあたりました。

##### ●千代崎海水浴場ビーチクリーン活動

従業員およびその家族103名がボランティアとして清掃活動に参加しました。

##### ●ゲートボールスクール

年間を通じて48回開催し、981名の参加がありました。のべ274名の従業員やOBのボランティアスタッフが運営にあたりました。



千代崎海水浴場ビーチクリーン活動



ゲートボールスクール

## 浜松製作所

### ●「やらまいカー」組立て、試乗体験教室

「ドリームハンズ」の一環で行われる、従業員と地域の大学生の共同プロジェクト。手づくりゴーカートキットを子ども達が自ら組立て、試乗走行します。「走る、止まる、曲がる」というクルマの基本を体験し、モノづくりの楽しさを実感します。2007年度は5回行われ、292名の参加があり、82名の従業員がボランティアとして運営にあたりました。

### ●施設交流会「潮干狩り」

障がいのある人達17名を招待して、浜名湖での潮干狩りや湖上遊覧を楽しんでいただきました。昼食をとりながら39名の従業員・OBと交流をはかりました。

#### その他の活動

#### ●浜名湖クリーン作戦

浜松市、湖西市、新居町が主催する「浜名湖クリーン作戦」の主旨に賛同して、従業員やOBなど806名が参加しました。

#### ●グラウンドゴルフ大会

浜松市内の施設で過ごす高齢者や障がいのある人達48名と従業員やOB14名が大会を通じて交流を行いました。

#### ●事業所周辺美化活動

3ヵ月に一度、従業員が製作所周辺の歩道や駐車場周辺のゴミ収集を行っています。2007年度は244名の従業員が参加しました。



「やらまいカー」組立て、試乗体験教室



施設交流会「潮干狩り」



グラウンドゴルフ大会

## 熊本製作所

### ●第19回カントリーゴールド

南阿蘇のアスペクタで毎年行われるカントリーミュージックコンサート「カントリーゴールド」に協賛しています。2007年度は10月21日に行われ、Hondaは会場に製品を展示したり、子ども達を対象にしたダンボールクラフト教室「ドリームハンズ」を行うなど、8名のボランティアスタッフがHondaブースの運営にあたりました。

#### その他の活動

#### ●すこやか2008

2008年2月23日・24日に行われた熊本県の子育て支援イベント。Hondaブースでは、「交通安全キャラバン」と「ダンボールクラフト」を開催しました。

#### ●中学生軟式野球大会を開催

近隣中学校を対象とした野球大会を開催。Honda野球部の従業員35名が審判や運営委員となって大会を運営しました。

#### ●合志市民まつり

熊本農学公園カントリーパークにて合志市民まつりが行われ、ダンボールクラフト教室を開催しました。



中学生軟式野球大会



交通安全キャラバン

## 栃木製作所

### ●ソフトボールスクール開催

栃木製作所は、日頃のソフトボール部への声援に感謝するとともに、地域貢献およびジュニア育成を目的に、2007年11月～12月にかけての4日間、技術指導を中心としたソフトボール教室を開催しました。栃木県内の小学生や中学生を中心とした52チーム659名が参加。部員たちは、シートノックを披露したあと、一日かけて、守備や打撃、送球などの実技指導を行いました。



#### その他の活動

##### ●五行川的环境保全活動

製作所の近くを流れる五行川の河川敷を、取引先様、従業員とその家族441名が清掃しました。

##### ●「安全運転モデルロード」パレードに協力

工業団地管理協会主催の「安全運転モデルロード」パレードが開催され、体育館やオープンカーを貸出し、30名の従業員がパレードに参加しました。

##### ●熱気球ふれあい活動に協力

障がいのある子どもがいるご家族を対象とした熱気球体験活動の運営を、地域ボランティアの方々と協力して行いました。



五行川的环境保全活動



熱気球ふれあい活動

## 本社（和光）

### ●ライトアップセレモニー

2007年12月5日、地域の方々を招待して従業員・OBとともに約800名が、和光事業所の敷地内のメタセコイアのライトアップを楽しみました。当日は、従業員がサンタクロースに扮してミニプレゼントを配り、地元中学校吹奏楽部によるクリスマスソングの演奏、着ぐるみショーなども行いました。子ども達をはじめ、保護者や近隣の方々に楽しんでいただきました。



#### その他の活動

##### ●運転シミュレーター用車両寄贈

自動車への興味と交通安全に対する理解促進のため、和光市総合児童センターに、運転シミュレーターを寄贈しました。

##### ●桜ライトアップDE「花の宴」

2007年3月、和光事業所の桜をライトアップ。最終日には地域の人達にも広場を開放しました。

##### ●和光ビル周辺清掃活動

毎週火曜日、和光ビルから和光市駅への通勤順路と駅前広場を、従業員・OBが清掃しています。



桜ライトアップDE「花の宴」



和光ビル周辺清掃活動

## 本社(青山)

### ●国際フットサル大会に協力

2007年4月14日、「第10回港区国際フットサル大会」が開催されました。Hondaはこの大会に賞品の提供をはじめ、Hondaブースでは子ども達を対象にしたゲームを実施するなど運営に協力しています。フットサル参加チームの小学生をはじめ、保護者や近隣の方々にも楽しんでいただきました。



国際フットサル大会

### ●東京ベイ・クリーンアップ大作戦に参加

「東京湾を泳げる海に!」を合言葉にはじまった、東京都港区の関連団体や住民の方々に参加する東京・お台場海浜公園の清掃活動「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」に環境保全活動支援の一環として、2005年度から協賛しています。2007年度は9月8日に催されました。お台場海浜公園の中でも、都心ながら多くの水生生物が生息し、春には潮干狩りも楽しめるおだいばビーチを中心に、Hondaの従業員とその家族39名を含む約350名のボランティアの方々が清掃活動を行いました。



東京ベイ・クリーンアップ大作戦

#### 従業員 ボランティアの 声

「皆で使う公園を清掃する体験と、作業が終わった後、きれいになった光景を見て、その気持ち良さを実感する。こうした経験を家族と一緒にできるいい機会だと思っています。今後ともタイミングさえ合えば、家族で参加していくつもりです。」

### ●青山一丁目クリーンキャンペーン参加

2008年3月、Honda本社のある港区青山一丁目、港区赤坂地区総合支所が主催する「青山一丁目クリーンキャンペーン」が行われました。2007年度3回目となったこの活動には、Honda従業員20名が参加、青山一丁目交差点付近の歩道や植え込みの中のゴミを回収しました。Hondaは今後も、港区が掲げる「まちの美化と安全」を推進するために継続的に参加していきます。



青山一丁目クリーンキャンペーン

#### その他の活動

##### ●小学校の社会科授業に協力

青山小学校の社会科授業「自動車産業」で、子ども達が自分で考えた車を発表し、従業員が講評を行いました。

##### ●青山美化ピカ清掃大会に参加

青山商店会連合会・青山環境美化委員会主催の「青山美化ピカ清掃大会」が春と秋に実施され、年間で80名のHonda従業員が参加。本社のある青山一丁目付近のゴミ拾いを行いました。



青山小学校社会科授業協力

## グループ会社の活動

### (株)アイキテック 本社：愛知県東浦町

#### ●工場見学会

地域の小学生などを招いて、工場見学会を開催しています。トランスミッションギヤの一貫加工の工程、さらに風力・太陽光発電などの環境にやさしい設備、部品の製造ロボットや無人の部品搬送車など、工場の見学をしてもらうとともに、質疑応答の場を設け、生産工程や環境対応の取り組みについて、理解を深めてもらっています。

#### ●屋上緑化

工場の屋根全体をツルマンネン草(セダム属)で覆い、緑化を推進しています。この試みは、景観をよくするだけでなく、周辺環境の改善にもプラス。根から吸収した水が葉から蒸発する際に気化熱をうばう蒸散作用により、気温が低下して、夏の冷房使用を抑えることができます。

その他の活動 ●工場周辺のクリーン活動 ●東浦役場へ福祉車両寄贈  
●関市武芸川ふるさと夏祭り花火大会・東浦町産業祭り参加 ●地域行事の協賛金・助成金 など



### 浅間技研工業(株) 本社：長野県小諸市

#### ●小諸国際交流フェスティバル

地域に暮らす海外出身の方々による母国の紹介を通してさまざまな文化にふれることができるイベント「小諸国際交流フェスティバル」。2007年は13カ国の方々が集う中、浅間技研工業ではインドネシアの子会社(P.T. ASAMA INDONESIA)から受入れた研修生28名が参加。インドネシアの歌・踊りの紹介、風景写真や民族楽器の展示、インドネシア料理の試食などを通して、地域の方々と国際的な交流と相互理解を深める場となりました。

その他の活動 ●インターンシップ学生受入れ ●工場見学受入れ  
●少年野球クラブへのグラウンド貸し出し ●中学生一日職場体験学習協力  
●秋の全国交通安全運動参加  
●献血 ●小諸市主催夏祭り参加 ●小諸市総合防災訓練 ●小諸ひかりのファンタジー協力  
●桜祭り・佐久バルーンフェスティバル・小諸市「戦国サイクリング」・小諸市民ゴルフ大会協賛  
●事業所周辺のクリーン活動 など



### (株)ホンダコムテック 本社：埼玉県和光市

#### ●森田さんの夏休み教室「お天気とエネルギーのはなし」(Hondaウェルカムプラザ企画)

2007年8月、お天気キャスターの森田正光さんを講師に迎え、小学生を対象にした夏休み教室を開催し、2日間で152名の子ども達が参加しました。この教室では、お天気の不思議やおもしろさの話から始まり、風力やソーラーの実験・工作を体験。子ども達に自然科学の楽しさを感じてもらおうと同時に、エネルギーと地球環境には密接な関係があることに気づき、興味を持ってもらうきっかけになればと行われました。

その他の活動 ●お客様や地域の方々に喜んでいただけるイベントを毎月実施

#### Hondaウェルカムプラザとは

東京都港区のHonda青山ビル1階にあり、1985年のオープン以来、Honda製品の展示や技術の紹介のほか、さまざまなイベントを企画・実施して、ご来場のお客様や地域の方々とのおふれあいの場となっています。  
※(株)ホンダコムテックは、Hondaウェルカムプラザの運営・管理を行っています。



## 販売会社の活動

### 環境・安全・福祉認定制度(四輪販売会社)

Hondaは、販売・サービス段階での環境・安全・福祉における独自の基準を設け、お客様と地域に喜ばれ、信頼されるディーラーをめざしています。



#### グリーンディーラー

環境保全のためにさまざまな活動を実施している、地球にも地域にもやさしい販売会社です。



#### レインボーディーラー

安全という面から、クルマの楽しさ、クルマのある快適な暮らしをバックアップしている販売会社です。



#### オレンジディーラー

福祉という視点から、クルマの販売を通して地域社会に貢献する、人にやさしい販売会社です。

### 盲導犬育成支援(二輪および四輪販売会社)

Hondaは、全国の二輪および四輪販売会社の店頭にて、(財)日本盲導犬協会の募金箱を設置してご協力いただくよう推進しています。2007年度の設置協力店は1,096拠点、募金総額は156万円でした。



### 二輪販売会社 **ホンダドリーム堺** 本社：大阪府豊中市

#### ●中学生の職場体験学習受入れ

ホンダドリーム堺では、地元中学生を対象に、職場体験学習の受入れを行っています。この活動には、二輪販売店の実務体験を通じて、働くことの喜びや厳しさなどを知り、将来の進路選択に役立ててもらいたいという思いが込められています。



その他の活動 ● 地域のお祭りへの協賛 ● パラリンピック募金箱設置

### 四輪販売会社 **Honda Cars 山口** 本社：山口県山口市

#### ●山口いきいきエコフェア

2007年10月、県が主催する「山口いきいきエコフェア」にブースを出展し、シビック ハイブリッドや燃料電池車FCXなど、Hondaの環境技術についての展示・紹介を行いました。また、製品の技術だけでなく、「ビーチクリーン活動」の取り組み紹介や、Hondaのエコカーをモチーフにした塗り絵やペーパークラフトを体験するコーナーを設けるなど、多くの来場者にHondaの環境技術や取り組みについて伝えることができました。



その他の活動 ● 小中学生対象熊本製作所見学バスツアー ● 職場体験受入れ

### 四輪販売会社 **Honda Cars 大和奈良** 本社：奈良県葛城市

#### ●地域の清掃活動

Honda Cars大和奈良では、店舗近くにあるJR新庄駅構内や周辺の清掃を、従業員が毎週月曜日に行っています。また、店舗周辺の道路についても清掃活動を行っており、地域の方が気持ちよく過ごせる環境づくりを、年間を通じてお手伝いしています。





## 出前環境学習 京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム

### 地域の小学校を訪問して 環境学習を実施

Honda Cars京都では、京都市内などの企業、NPO、京(みやこ)エコロジーセンター、京都市などとともに、「京(みやこ)のアジェンダ21フォーラム・京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム」に参加して、地域で環境問題を解決するための活動を展開しています。その一環として、2008年2月、Honda Cars京都がある地域の京都市立朱雀第四小学校を訪問して環境学習を行いました。プロジェクトチームのメンバー4名が講師となり、6年生の児童48名に地球温暖化問題について説明するとともに、エコドライブの推進といったCO<sub>2</sub>削減に取り組む具体例をわかりやすく説明しました。

### 燃費や燃料電池車の話で さらに高まる環境への興味

Honda Cars京都からは、Hondaとして力を入れて取り組んでいる燃費をテーマにした話や、燃料電池車FCXクラリティについての講義を行いました。また、太陽電池パネルと家庭用燃料電池で実現する循環型社会の講義では、子ども達に問い掛けながら、環境に対する興味を高めてもらいました。子ども達からは、「家族に教えた」「車の使い方を考えるのは、大切なことだと思った」などの反応があり、子ども達が環境問題について考える良いきっかけづくりとなったようです。



「京のアジェンダ21フォーラム・京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム」プロジェクトリーダー  
長屋博久さん

### スタッフの 声

「車のプロならではの  
説得力があります」

「Hondaの人は環境活動に熱心で、勉強会にも積極的に参加してくれます。燃費のこととか、次世代の車のことなどは、やはり車のプロが語ると説得力があるんです。プロがこういった教育の現場に出て行くというのは、意味のあることだと思います。」

## 海外Hondaグループの社会活動

Hondaは、現地オペレーションの自立化を積極的にすすめています。海外での社会活動においても、その地域の実情に応じた取り組みをすすめて、お客様や地域の方々とコミュニケーションをはかりながら、喜びを分かちあえるような活動を実践しています。ここではHondaの地域本部制にもとづき、日本以外の5つの地域での社会活動への取り組みを紹介します。



前章までに紹介した下記の活動も海外Hondaグループの活動です。

- NYPUM…P08
  - 学校環境奨励賞…P14
  - イーグル・ロック・スクール…P14
  - ビッグ・ダービー・クリーク保全活動…P18
  - スプリングクリーク保全活動…P24
  - Hondaツリーファンド…P24
  - ファーマー安全運転コンテスト…P28
- ※海外拠点でのその他の活動については、P56～P57に掲載しています。

### 北・中米の活動

#### アメリカンホンダモーターカンパニー・インコーポレーテッド

##### ●ライド・フォー・キッズ

「ライド・フォー・キッズ」は、小児脳腫瘍の原因解明と治療法の確立をめざす小児脳腫瘍基金(PBTF)を、バイクを活用して支援するプログラムです。1984年に始まり、Hondaは1991年からメインスポンサーとして支援。Hondaライダーズクラブオブアメリカおよび数千名を超えるライダーの協力を得て、小児脳腫瘍の研究と患者の家族を支援するため、これまでに3,700万ドルを超える募金を集めました。その内、2007年分は過去最高となる年間450万ドルにのぼります。アメリカのバイク・コミュニティのサポートを得たPBTFは、小児脳腫瘍研究を対象とした非政府基金としては世界最大の寄付をしています。



#### ホンダカナダ・インコーポレーテッド

##### ●シビック・リーディング・サークル

2007年度、カナダ国内の4つの事業所に在籍するホンダカナダの従業員47名は、小学2・3年生の読む能力の発達をサポートし、読書の楽しみを教えるプログラム「シビック・リーディング・サークル」にボランティアとして参加しました。従業員は週1時間、合計10週間を子ども達と読書をして過ごし、ホンダカナダは1時間につき30分を勤務時間として扱うことで、この活動を支援。読書は、ケベック州ではフランス語で、その他の地域では英語で行われました。プログラム最終日には、それぞれのサークルを支援するHonda事業所を子ども達が訪問し、最後の読書会を楽しみました。読書の喜びを伝え、子ども達の読書力の向上にさらに貢献するため、Hondaは本を子ども達とその学校に寄付。従業員もサークルへの参加を通して有意義な経験をし、「存在を期待される企業となることをめざす」という言葉に込められた意味を再確認しました。



## ホンダマニュファクチュアリングオブアラバマ・エル・エル・シー

### ● ボランティア月間

2007年7月、ホンダマニュファクチュアリングオブアラバマは、初のボランティア月間を実施しました。従業員の社会貢献への意識を高め、長期的に地域のボランティア活動を支援する同社のプログラム「ホンダスター」への参加を促すことを目的にしたものです。この活動では、従業員1名が非営利団体のために5時間のボランティア活動をするごとに、会社がその団体に100ドルを寄付する仕組みになっています。今回は、725名の従業員とその家族がボランティアとして参加。アラバマ盲ろう協会、ペルシティ・ボーイズ&ガールズ・クラブ、アラバマ小児病院などの団体で活動を行いました。自分達の働く会社を地域に暮らす人々の生活向上に貢献する企業にしたい、という従業員達の思いがカタチとなりました。



## アメリカンホンダ財団

### ● 全米の教育プログラムを支援

アメリカンホンダ財団は1984年に設立された非営利の社会活動団体。子ども達の教育や科学教育の分野で、価値ある活動が続ける非営利の団体やプログラムに対して、資金援助をしています。財団は、Hondaと同じく、前向きで想像力にあふれ、若いマインドで創造的、革新的、科学的、かつ人道的に活動する団体を支援して、これまでに2,000万ドル以上の資金を寄付しました。

2007年度に財団が支援した活動としては、ハーレム・チルドレン・ソサエティによる高校生を対象とした科学研究インターンシップや、マサチューセッツ大学フューチャー・エンジニアズ・センターでの小学5年生～中学2年生を対象とした設計と問題解決トレーニングなどが挙げられます。



## ホンダ・デ・メキシコ・エス・エー・デ・シー・ブイ

### ● 四輪バギーツーリングイベントで清掃活動

2007年4月28日、四輪バギー愛好者の方々に向けて、ホンダ・デ・メキシコはメキシコ全土で74通りのルートでのツーリングイベントを開催。Hondaからは94店の販売店従業員と2,000名以上のお客様が参加しました。メキシコ国内に残されている貴重な森林や川辺、海岸などの多彩なフィールドで四輪バギーの走りを楽しむとともに、それぞれの場所でクリーンアップ活動を実施。参加者は用意したゴミ袋を手に、昼食などの休憩地点で清掃活動を行いました。



## 南米の活動

### ホンダオートモーバイス・ド・ブラジル・リミターダ

#### ●子ども達の交通安全を促進

2007年5月、ホンダオートモーバイス・ド・ブラジルは、子ども達の交通安全を促進する新しいプログラムを立ち上げました。5名のHonda従業員が、スマレ交通局から支給されたマニュアルと図面に従って、スマレ工場付近にある5つの学校の周辺道路に横断歩道や路面標示をペイントし、道路標識を設置。この標識によって、クルマを運転する人に学校や横断歩道の存在を伝え、交通量の激しい道路でも子ども達が安全に横断することができるようになりました。

また、さらなる交通安全対策として、交通局とHonda、そして5校の教員が協力して特別イベントを実施。子ども達が楽しみながら学べるように工夫をこらし、教員とHonda従業員が合同で交通ルールと交通安全の基本を指導しました。このイベントは、5校の全学年を対象に通常の授業に代え1日かけて行われ、交通安全について学ぶ貴重な機会となりました。子ども達と教員からの評判も良く、2008年も同5校で実施される予定です。今後は、道路環境の安全をいっそう強化し、新たに5校での交通安全指導も行う予定です。



#### ●団結ワークショップ

サンパウロの都市スマレで創業以来、ホンダオートモーバイス・ド・ブラジルは、地域の恵まれない人々を支援してきました。「団結ワークショップ」はその取り組みのひとつです。従業員が毎月寄付を行い、会社も同金額を寄付。その資金を利用して、従業員がボランティアで食糧の提供や、娯楽や教育支援を行うイベントを開催しています。

「子どもの感受性はとても素晴らしい。ボランティア活動は完全な奉仕ですが、子ども達の笑顔を見られることに勝る喜びはありません。同僚達にも、ボランティアとして参加することを勧めています」と従業員ボランティアのひとり話します。また、コーディネーター、マルセロ・ペロンも同様に活動を有意義なものだと感じ、「会社が社会の一員としての責任を果たすように従業員が団結し、地域の役に立てるとてもうれしい」と述べています。

イベントは年3回行われます。2007年には、ブラジルの伝統行事「6月のパーティ」の特別企画として、従業員が地域に食糧を寄付し、絵画コンクールなどの児童教育活動を実施しました。また、10月12日には、子どもの日を祝って、子ども向けの文化イベントを盛り込んだパーティを開催。さらに、食べ物を詰め合わせたバスケット540個を地域の方々に寄付しました。

12月の「クリスマスパーティ」には3,000人が参加し、2007年最大の地域交流イベントになりました。従業員は食べ物を詰め合わせたバスケット1,000個以上を配り、子ども達1,800名におもちゃや衣服、教材、キャンデーなどを袋詰めしたクリスマスプレゼントを贈りました。さらにホットドッグ、ポップコーン、キャンデーなどをふるまい、無料の散髪サービスを提供しました。



## モトホンダ・ダ・アマゾニア・リミターダ

### ●アマゾンの大切さを伝える森林保護区見学ツアー

ブラジルのアマゾナス州マナウス市には、アマゾン特有の生態系の保護と研究を目的に設立された約100平方キロメートルに及ぶアドルフォ・ドゥッケ森林保護区があります。2003年、モトホンダ・ダ・アマゾニアでは、森林管理や水資源などを研究するナショナル・インスティテュート・オブ・アマゾン・リサーチおよび地方自治体と提携し、地域の人々に自然環境への理解を深めてもらうため、この保護区と植物園の送迎付き見学ツアーを開始しました。

2007年には3月～12月の毎月最終日曜日、約250名がガイド付きの森林散策、マラリアなどの熱帯性の病気に関するセミナー、環境をテーマにした演劇や子ども向けのゲームなどの教育プログラムに参加。この地域特有の生態系と、それらが人間に与える影響について学ぶのと同時に、水質汚染、森林破壊などの環境破壊の防止に努めることの大切さを伝えました。モトホンダ・ダ・アマゾニアの従業員8名がボランティアとして、参加者の送迎や飲み物の提供などのイベント実施のサポートにあたりました。



## ホンダサウスアメリカ・リミターダ

### ●二輪車の安全運転普及活動

ホンダサウスアメリカでは、1998年にサンパウロ州インダイアトゥーバ市に、2006年にはペルナンブコ州レシフェ市に設立された「CETH (Honda交通教育センター)」を運営しています。生活から仕事まで幅広く二輪車を利用しているブラジルで、人々が安全に暮らし、働くために、安全運転の指導を目的とした学科と実技の二輪車講習を実施しています。

2007年には、サンパウロ、ミナスジェライス、ペルナンブコ、バイアの4州で、28回の講習会を開催し、3,997名が参加しました。サロン ドゥアス ホーダス バイクショー、アグリショー、アドベンチャー・スポーツ・フェア、冬のフェスティバル「カサ・ホンダ」などのイベントでは、二輪車と四輪バギーの試乗会を実施し、10,545名が参加。また、インダイアトゥーバの交通教育センターとHondaのスマレ工場で、イベントを3回実施し、687名が参加、5,000名以上が見学しました。バイク利用者の増加にともない、安全への関心が高まる地元の企業や学校の要請を受けて行うことが多い講習会では、わずか1時間半で大人数に効率的に安全な運転技術を教えます。さらに試乗会では、技術レベルに応じてHondaのインストラクターがきめ細かく指導し、ベテランライダーの実演も行われます。CETHのプログラムには運転免許を持つ人なら誰でも参加することができ、参加者は年々増加しています。



## 欧州・中近東・アフリカの活動

### ホンダオートモービルズエスパーニア・エス・エー

#### ●「アクティブ・アフリカ」への支援

存在を期待される企業となることをめざして、ホンダオートモービルズエスパーニア、ホンダ・ファイナンス・スペイン、そしてHondaの販売会社は、アフリカの馬拉ウイとケニアの社会福祉に貢献するスペインのNGO「アクティブ・アフリカ」に101台の自転車を寄付しました。馬拉ウイでは、道路などのインフラが不足しており、教師や医師は、生徒や患者を自転車で訪問しています。そこで、Hondaの従業員は1カ月の自転車収集キャンペーンを展開。販売店でのポスター掲出や従業員間のネットワークを活用して寄付を呼びかけた結果、この活動に共感した従業員やお客様から多数の自転車と募金が集まり、「コーポレート・デー」の特別式典でアクティブ・アフリカへ贈呈されました。コーポレート・デーは、ホンダオートモービルズエスパーニアとホンダ・ファイナンス・スペインの全従業員が集い、親睦を深める年に1度のイベントです。この寄付に対し、アクティブ・アフリカから感謝の言葉をいただき、従業員達は社会貢献できたことの充実感に満たされました。



### ホンダイタリアインダストリアーレ・エス・ピー・エー

#### ●ホンダ・ライディングスクール

1998年以来、ホンダイタリアインダストリアーレは「ホンダ・ライディングスクール」を実施しています。インストラクターの資格を持つHonda従業員が指導にあたり、ベテランライダーから初心者まで、オートバイやスクーターの安全運転について学ぶことができる野外講習会です。イタリア各地の特別イベントで実施され、モビリティ社会での交通安全を促進すると同時に、若い世代にバイクを運転する喜びと興奮を伝えています。講習では実際の運転を想定して数々の障害物が配置された特別コースが設けられ、インストラクターは参加者のレベルに合わせた指導を行います。2007年度には、ホンダイタリアインダストリアーレでも特に優れた技術と豊富な経験を持つ従業員30名が指導するライディングスクールを、7つのイベントで実施。参加者は339名にのびりました。うち4つは、Hondaの二輪車のオーナーがレースコース走行を体験できる「Hondaフェスティバル」として開催。また、年に1度行われるイタリアらしい都市型イベント「バイカーズ・フェスティバル」で、また「ホンダ・イン・ザ・シティ」でも2回、ホンダ・ライディングスクールが実施されました。



### ホンダバンク・ゲー・エム・ベー・ハー

#### ●授業協力「お金ってなに？」

自動車ローンを専門とするホンダバンクに勤めるウィリ・タータリカ。彼は、娘の学校の先生が、お金とお金に付随する責任について教えられる専門家を探していることを知り、協力を申し出ました。会社がこれを支援し、7~8歳の子ども達を対象とした特別授業を2回開催。お金の歴史や使い方、通貨ごとに価値が異なる理由、そして価格の概念について教えました。

現在ドイツでは、若者の借金が深刻な社会問題となっており、この特別授業は、学校や家庭でのお金に関する教育を支援して、子ども達に責任のあるお金の使い方を学んでもらうことを目的としています。特別授業は好評で、次回は市場についての授業を行うことにしています。





## アジア・大洋州の活動

### ホンダフィリピンズ・インコーポレーテッド

#### ●ホンダルーム

ホンダフィリピンズとホンダファウンデーション(フィリピン)は、2005年以来、整備士をめざす若者のための職業訓練プログラム「ホンダルーム」を後援。フィリピン各地の職業訓練校に5つ開設されたホンダルームは、Honda各社が共同で支援し、工具や設備、教材を提供。それらを使って生徒達が実践的な訓練を受けています。ホンダフィリピンズはオートバイを提供。ホンダカーズフィリピンズとホンダパーツマニュファクチュアリングでは、2008年度に四輪車のエンジンとトランスミッションの提供を予定しており、ホンダルームはめざす姿に近づきつつあります。修了した生徒達には身に付けた高い技能で、より良い就職や修理店開業などの夢を実現する道が拓けています。ホンダルームを通して、Hondaは若者たちの技能向上と夢の実現をサポートし、フィリピンでの雇用拡大に貢献しています。



### ホンダマレーシア・エス・ディ・エヌ・ビー・エイチ・ディ

#### ●ホンダ・ドリームズ・ファンド

2007年1月、ホンダマレーシアは、国連開発計画(UNDP)マレーシア事務所とともに、ホンダ・ドリームズ・ファンドの設立を発表しました。これは学費を捻出できず高等教育を受けられない若者に、学費と在学中の生活費を全額給付する基金です。この基金を通じ、Hondaは若者達の夢の実現を応援するとともに、マレーシアの人材育成への貢献をめざしています。

自分の夢について述べた課題のエッセーなどの書類選考で選ばれた60名が、4月中旬に3日間のワークショップ「夢をつかもう」に参加。プログラムを通じたチームワークや論理的かつ創造的な思考力の審査と、面接が行われました。UNDPマレーシア事務所、ホンダマレーシア、マレーシア国内人権委員会(SUHAKAM)、オール・ウィメンズ・アクション・ムーブメント、マレーシア・ユース・カウンシルのスタッフによる審査の結果、この年の奨学生20名が決定。4月25日に行われた式典で発表され、ホンダ・ドリームズ・ファンドは正式に発足しました。奨学生の一人は「本当に夢が叶ったよ!弁護士になりたいくて、勉強のための資金援助を受けたいって、毎日夢見てたんだ」と大変喜んでいました。



#### ●ライノ・レスキュー・プロジェクト

絶滅の危機に瀕しているスマトラサイの生息数は、現在全世界で300頭足らず。スマトラサイを増やすため、Hondaは、WWF(世界自然保護基金)マレーシアと合同で調査と保護を行っています。「ライノ・レスキュー・プロジェクト」は2006年に5ヵ年計画としてスタート。スマトラサイの生息地保全のための技術研究やフィールドワークが行われています。

2007年度もホンダマレーシアはWWFに活動資金を出資したほか、学校での学習プログラム、販売店での展示などでスマトラサイとその生息地を保全することの大切さを人々によりよく知ってもらう活動を、前年に引き続き行いました。小学校で実施したプログラムは、子ども達が楽しみながら学べる充実した内容。ゲストによる講演では、自宅で環境に配慮して行動することがスマトラサイ救済につながる事が伝えられるなど、子ども達はプログラムを通して、自分達の役割の重要性を学びました。



## ホンダ台湾モーターカンパニー・リミテッド

### ●高屏河川敷公園の清掃活動

2008年1月19日、ホンダ台湾モーターは工場に隣接する高屏河川敷公園の清掃活動を開始しました。工場や地元の販売会社の従業員、そしてその家族達は、郡の環境保全事務所の代表の方々と協力し、缶、ボトル、ビニール袋、タバコの吸い殻などのゴミの回収と分別を実施。ゴミのポイ捨て削減や、公園とその周辺の美しい自然の回復に貢献した約300名の参加者が、地元職員からの感謝を受けました。ホンダ台湾モーターでは、環境保全活動を通じて地域社会との信頼関係をさらに深めるため、来年度も同様のプログラムを実施する予定です。



## ピー・ティ・ホンダプロスペクトモーター

### ●マイ・グリーン・ジャカルタ

ホンダプロスペクトモーターは、自治体の組織ジャカルタ・ガーデン・アフェアーズと協力し、3年連続で「マイ・グリーン・ジャカルタ」を展開しています。「インドネシアのためのHonda」キャンペーンの一環として実施しているこの地域プログラムは、緑の力でインドネシアの首都の環境を改善しようとするものです。

2007年には、ガルングン通りに全長800メートルの都市型公園を造り、5月2日に正式に公開されました。128本の樹木が植えられ、11,916個の鉢植えされた植物が通りに彩りを添えています。また、2008年のはじめには、バンジール・カナル・バラット川沿いに1,007本の樹木が植えられたグリーンベルトを創設し、堤防の役割を果たすことが期待されています。1月13日にはインドネシアを緑豊かにしようとするHondaの決意を象徴するイベントとして、川岸で植樹式典を実施しました。



## アトラスホンダ・リミテッド

### ●交通安全および安全運転の促進プログラム

2007年4月～12月の期間中、アトラスホンダはパキスタンのラホール市交通警察の協力のもと、交通ルールとオートバイの安全運転を教えるプログラムを実施しました。まず150名の警察官を指導し、このプログラムのトレーナーとして認定。さらに、パキスタン初の女性交通巡視員200名を含む約3,000名の交通巡視員に対して、オートバイ運転のトレーニングを実施。認定されたトレーナー達とアトラスホンダは、一般の人々5万名、企業の人々1万名、そして300の学校の生徒達に安全運転を指導しました。パキスタン最大のバイクメーカーとして、Hondaが地域社会において果たすべき責任を反映したこのプログラム。企業と警察が協力し、草の根レベルで交通安全を促進することで地域社会に貢献しています。



## ブキバト・ドライビングセンター・リミテッド

### ●「ライド・セーフ2007」開催

ブキバト・ドライビングセンターは、シンガポール交通警察と協力し、2007年9月1日に初の安全運転イベント「ライド・セーフ」を開催しました。300名のライダー、および企業、政府機関、オートバイクラブなどから100名のゲストが参加。楽しい対話形式で、二輪車の安全運転の講習が行われました。

イベントの始めに、参加者達は隊列を組んで各職場からオートバイで会場に集合。デモンストレーションを鑑賞して楽しく学んだ後、ライダー達は安全運転の技術を競うゲームに参加しました。ブキバト・ドライビングセンターはこのライド・セーフで、都市交通環境におけるオートバイの脆弱性を伝え、またスピード違反や飲酒運転をなくすことをめざしてこのイベントを開催しています。これからも引き続き安全運転を心掛けてもらえるよう、プログラムのメッセージがプリントされたウィンドブレーカーなどのグッズが参加者に配られました。



## ホンダコリアカンパニー・リミテッド

### ●障がいのある子ども達への支援活動「オーケストラ」

ホンダコリアでは2007年、従業員4名が58名のボランティアの協力を得て、障がいのある子ども達の施設を支援する活動を行いました。社会に喜びと調和をもたらしたいとの思いから「オーケストラ」と名付けられたこの活動は社内に広がり、従業員の共感を集めました。9月にはチャリティバザーが開催され、従業員から集めた寄付品の販売と募金活動によって、活動資金が集められました。

この資金は、身体および知的障がいのある子ども達8名が暮らす、ミンドゥレウルに寄付されました。10月には7名のボランティアスタッフが子ども達を連れて遊園地へ。ホンダコリアは交通費や食費を負担し、交通手段として社用車を提供しました。初めての体験は忘れられない思い出となったようで、子ども達とホストファミリーから温かい感謝の言葉をいただきました。オーケストラは今後も施設への支援を続け、友好関係を深めています。



## ホンダシェルカーズインディア・リミテッド

### ●近隣地域での巡回式健康診断実施の支援

2005年以来、ホンダシェルカーズインディアは、ライオンズクラブおよびインドを代表する医療施設であるムールチャンド病院と協力し、周辺の村を回って健康診断を実施しています。住民の健康問題への理解と意識向上につとめ、病気予防を促進するとともに、十分な医療サービスが受けられない、または治療のために遠方に出向かなければならない人々に対する治療も行っています。2007年度は、12の村で1,566名が健康セミナーと健康診断を受け、必要な人には無料で薬が処方されました。受診者の方々からは、衛生教育と医療サービスの質の高さについて評価いただきました。この反響を受け、今後は慢性疾患への対応にさらに力を入れながら、より多くの村の住民に医療サービスを提供できるよう、活動の内容と規模を拡大していく予定です。



## ホンダオーストラリア・プロプライエタリィ・リミテッド

### ●オーストラリアの聴覚ケア支援

オーストラリアのホンダファウンデーションは、ホンダオーストラリアおよび国内の販売店、そして一般の方々からの寄付を活動資金とし、経済的・社会的に恵まれない人々、身体の不自由な人々、そして長期に渡り重い病気に苦しんでいる人々をサポートする団体を支援しています。2002年10月より、フレッド・ホロウズ財団と協力し、サンライズ・ヘルス・サービスを支援。この団体は、ノーザン・テリトリー（北部準州）のキャサリン・イースト地区に暮らす8歳未満のアボリジニーの子ども達の聴覚ケア改善をめざしています。サンライズのスタッフは、地域社会の聴覚ケアに対する意識向上のため、子ども達の家族と協力して、耳の疾患や聴力の検査を実施しています。その結果、健康な聴力で学校に通うことができる子ども達が増え、学習で成果を上げ、より健やかに成長できるよう改善されました。ホンダオーストラリアとホンダファウンデーションは、このような団体の支援を通じ、オーストラリアの新たな世代の明るく健康的な未来のため、サポートにつとめています。



撮影：Claude Ho

## 中国の活動

### 本田汽車(中国)有限公司

#### ●恵まれない小学生への支援活動

中国の未来を担う子ども達に教育の機会を提供したいと、従業員から約3万円の募金を集め、2007年3月16日と9月11日に、会社近隣の農村地域にある小学校を訪問。計60名の恵まれない小学生に、一年間の教育費を提供しました。9月26日には、子ども達を工場見学に招待。子ども達は色鮮やかなJAZZ(ジャズ=日本名 フィット)の製造過程に、熱心に見入っていました。



#### ●従業員ボランティアが老人ホームを慰安訪問

2007年10月13日、約20名の従業員ボランティアが広州市にある幸福養老院のお年寄りを訪問し、日用品のプレゼントや掃除活動を実施。また、お年寄りとおしゃべりを楽しみながら交流を深めました。このようなボランティア活動に長期に渡って取り組みながら、地域に貢献しつつ、社会に期待される企業をめざします。



### 東風本田汽車有限公司

#### ●植林活動

行動で「企業と社会、環境との共生」という企業理念を実践し、その中で地域社会との共生を図ること。これを目標として、毎年3月に東風本田汽車の従業員ボランティアは、武漢経済技術区において植林活動に参加しています。



## Hondaの寄付・支援活動

### Honda Cカードによる寄付活動

Honda Cカードのチャリティ参加機能として、会員の皆様がカードをご利用になった年間総利用額の0.05%にあたる金額を、Hondaが日本赤十字社と(財)日本ユニセフ協会に寄付しています。2007年度は7,739万円を寄付。これまでの寄付金累計額は、5億8,996万円を超えました。

#### ●寄付実績

年度	寄付金
2005	6,830万円
2006	7,361万円
2007	7,739万円

### 災害支援

2007年 7月 新潟県中越沖地震に義援金500万円を日本赤十字社へ寄託  
現地の要望に基づき車両(ステップワゴン、スーパーカブ)を提供

2007年11月 バングラデシュのサイクロン災害に義援金500万円を日本赤十字社へ寄託

2008年 1月 首都圏大規模災害に備え、埼玉県に投光機付き発電機16台を寄贈

## 人と社会と共生する労働組合をめざして

### 本田技研労働組合(本田労組)の活動

4万人を超える組織となった本田労組は、結成40周年を迎えた1992年に「社会貢献基金」を設立。社会貢献活動に対する取り組みを強化しました。

#### ホンダリピートホットライン(車いす改造ボランティア)

本田労組は全国に9つの支部があり、組合員とともにそれぞれの地域に根ざした活動を展開しています。中でも「リピートホットライン」は、組合員が参加しやすい活動として全支部共通で取り組んでいます。この活動は、車いすマラソン大会への参加をきっかけに、車いすに座り心地の良い自動車のシートを載せてみてはどうだろう、という発想から1993年に始まった活動です。2007年度にはのべ1,062名の組合員がボランティアとして参加し、111台の車いすを寄贈しました。1993年からの累計寄贈台数は、1,800台にも達しています。



ホンダリピートホットライン

#### ●ホンダリピートホットライン活動実績

年度	車いす寄贈台数	ボランティアスタッフ数
2005	128台	1,607名
2006	98台	1,013名
2007	111台	1,062名

#### 車いすマラソン大会へのボランティア参加

1993年から「大分国際車いすマラソン大会」の運営や進行を陰から支えるボランティア活動としてスタート。年々、回数を重ねるごとに募集人数を上回る応募があり、参加した組合員からも高い評価を得ています。1998年には他の大会にも活動を広げました。2007年度は、「大分国際車いすマラソン大会」に10名、「名古屋シティハンディマラソン大会」に10名の組合員が参加。これまでのべ428名が参加しています。

#### 緊急援助と緊急カンパ

大規模な災害等が発生した場合に、社会貢献基金からの緊急援助や、組合員による緊急カンパを行っています。



名古屋シティハンディマラソン大会

## 財団の活動

### (財) 本田財団

本田財団は、現代社会の科学技術の成果を人類の福祉と平和に役立たせ、人間性あふれる文明の創造に寄与することを目的に、1977年、Hondaの創業者・本田宗一郎と実弟・弁二郎の両氏が私財を寄付して設立しました。「人間活動を取り巻く環境全体との調和を図った真の技術——エコテクノロジー」という新しい技術概念を提唱し、その確立と普及のため、国際褒賞「本田賞」の授与、国際シンポジウム・セミナーの開催、YES奨励賞<sup>※</sup>の授与などの事業を行っています。

※YES=Honda Young Engineer and Scientist's Award

#### 《 本田賞 》

2007年の第28回本田賞は、世界初の腹腔鏡下胆嚢摘出手術を行い、内視鏡外科手術の技術革新を行った功績に対し、フランス・リヨンの外科医師、フィリップ・ムレ博士に授与されました。「手術者は、エコシステムである人間の身体に宿る自然の摂理を侵してはならない」という哲学を持つムレ博士は、まさにエコテクノロジーの提唱者です。

#### 《 国際シンポジウム 》

2008年3月、タイ・バンコクにて、国際シンポジウム「アジアにおける革新と起業家精神」を開催しました。日本・タイ両国の産業界、政府、学会それぞれの専門家の集いに、ベトナム、ネパールからの有識者も加わり、「資源と地球環境」など、4つのテーマで2日間に渡り活発な議論が交わされました。

#### 《 YES奨励賞 》

財団創立30周年を記念し、新たな事業として2006年からスタートした「YES奨励賞」は、科学技術分野における将来のリーダー育成をめざしています。初年度にはまずベトナムで展開し、2007年にはインドで開始。今後も主にアジアの学生を対象に事業規模を拡大していく予定です。

この制度は、科学技術分野で優秀な成績を納め、より高いレベルをめざす学生に授与される奨学制度です。受賞者の学生達の今後の活動をさらに支援する継続的なプログラムのユニーク性に対しても、多くの企業や大学から注目を浴びています。



Honda福井社長と握手するムレ博士(左)



表彰を受けるインドの学生

### (財) ブレインサイエンス振興財団

脳に関する研究の振興と普及を行うために、1986年11月に設立。生命科学分野における独創的な研究者を称える「塚原仲晃記念賞」の贈呈をはじめ、若手研究者を中心とした支援に力を入れています。